

6 風水害について

6-1 風水害の危険性についての認知状況

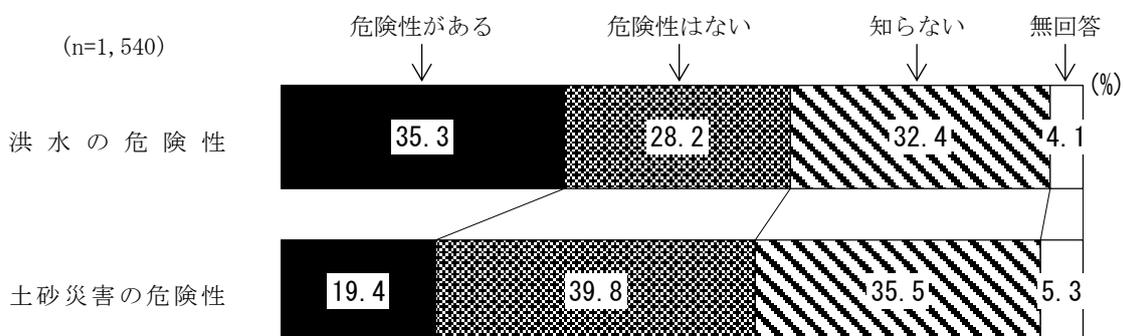
◎自分の住んでいる地域について「危険性がある」の認知度は、＜洪水＞が35.3%、＜土砂災害＞が19.4%

問 18. 大雨や台風の際に発生する恐れがある風水害についてうかがいます。

ア) あなたは、お住まいの地域で、洪水や土砂災害の危険性があるかどうかご存知ですか。

(○はヨコに1つずつ)

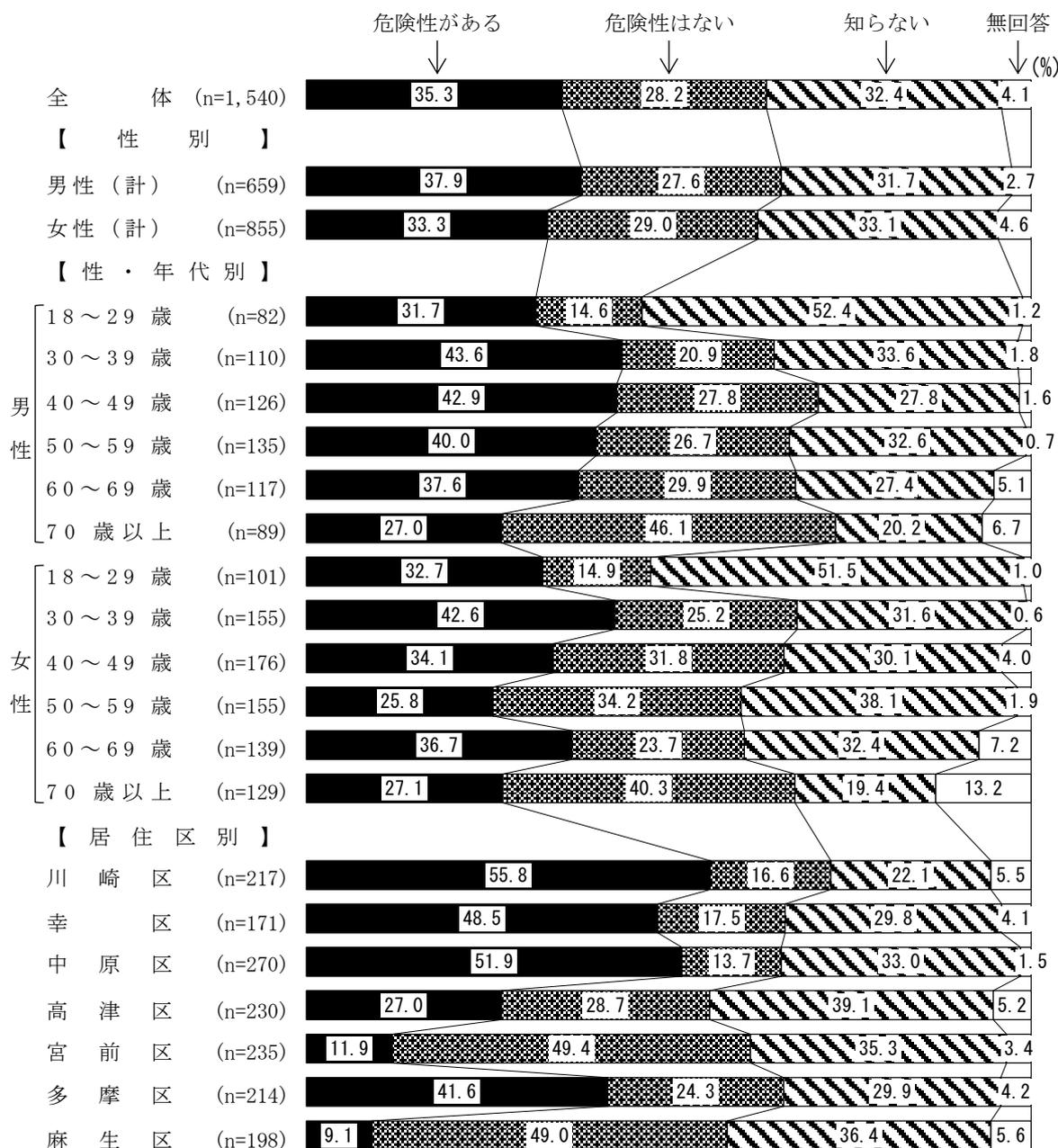
図表 6-1 風水害の危険性の認知



「洪水」については、「危険性がある」(35.3%)と「危険性はない」(28.2%)を合計して6割以上が「洪水の危険性」を認知している。

「土砂災害」については、「危険性がある」(19.4%)と「危険性はない」(39.8%)を合計して6割近くが「土砂災害の危険性」を認知している。

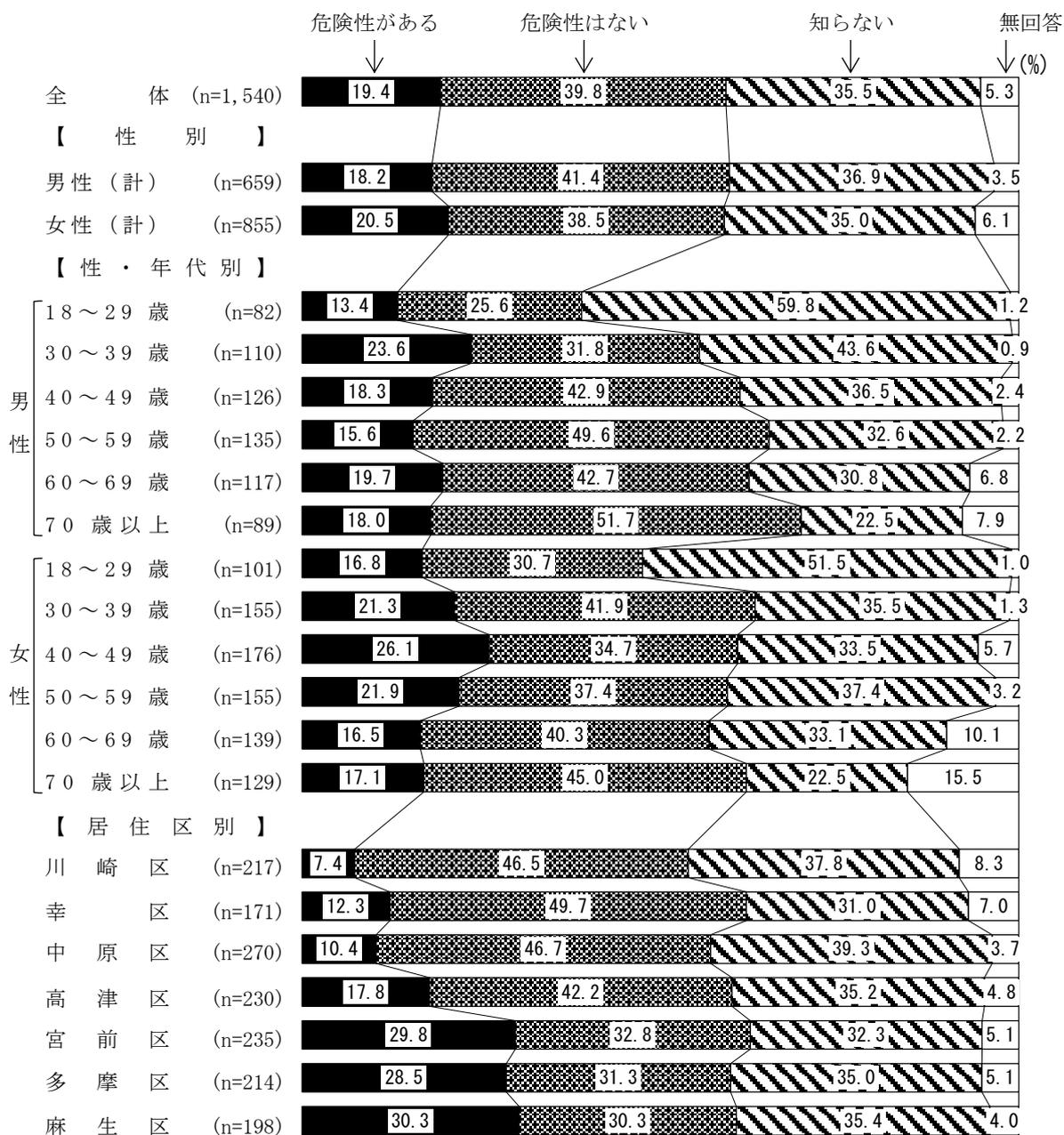
図表6-2 風水害の危険性の認知(性/年齢別・居住区別)
【洪水の危険性】



性/年齢別では、男女の18~29歳を除き、「洪水の危険性の有無を知っている」割合が6割を超えている。

居住区別では、「洪水の危険性の有無を知っている」割合は、川崎区(72.4%)が最も高く、次いで、幸区(66.1%)、多摩区(65.9%)、中原区(65.6%)の順であった。これらの4区では「洪水の危険性があることを知っている」が4割~6割近くとなっている。一方で、宮前区と麻生区では「洪水の危険性がないことを知っている」が5割近くとなっている。

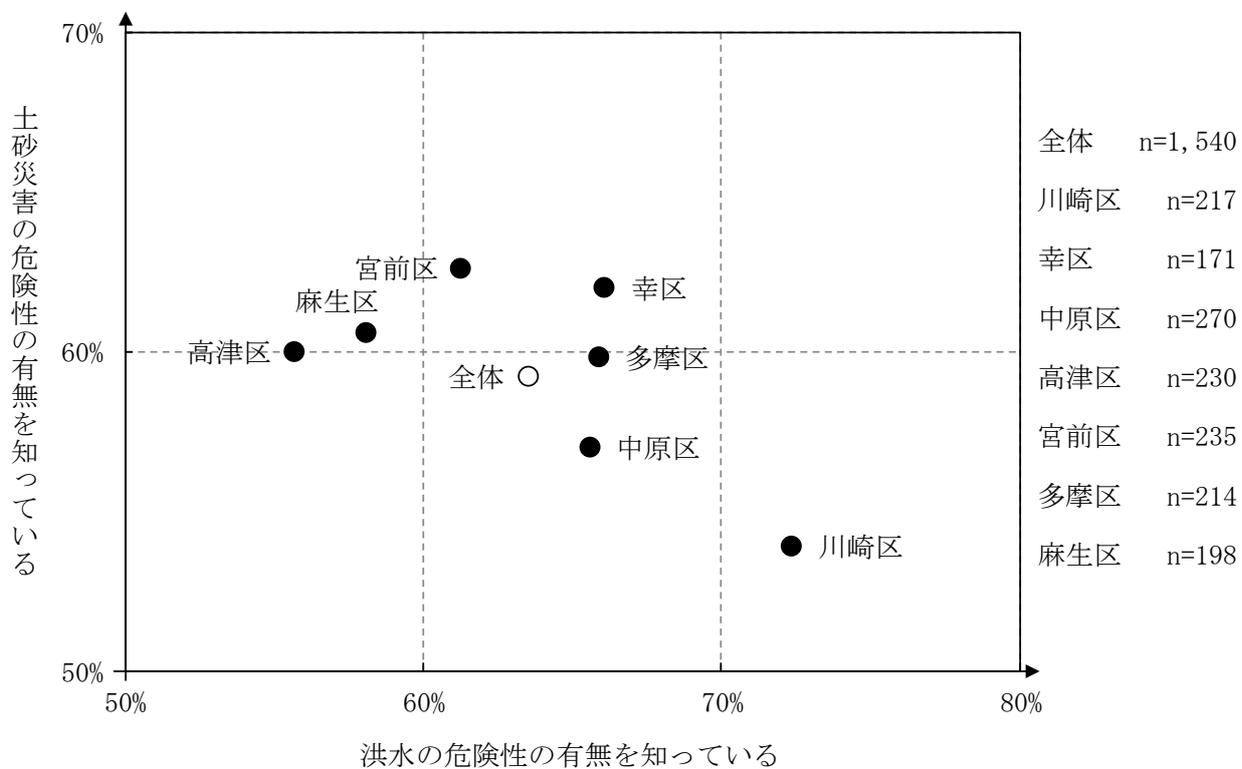
図表6-3 風水害の危険性の認知(性/年齢別・居住区別)
【土砂災害の危険性】



性/年齢別では、男女の18~29歳を除き、「土砂災害の危険性の有無を知っている」割合が5割を超えている。

居住区別では、「土砂災害の危険性の有無を知っている」割合は宮前区(62.6%)が最も高く、次いで、幸区(62.0%)の順となっている。宮前区、多摩区、麻生区では「土砂災害の危険性があることを知っている」と「土砂災害の危険性がないことを知っている」割合がともに3割前後となっている。一方、川崎区、幸区、中原区では「洪水の危険性がないことを知っている」が5割近くとなっている。

図表6-4 居住区別風水害の危険性の認知状況



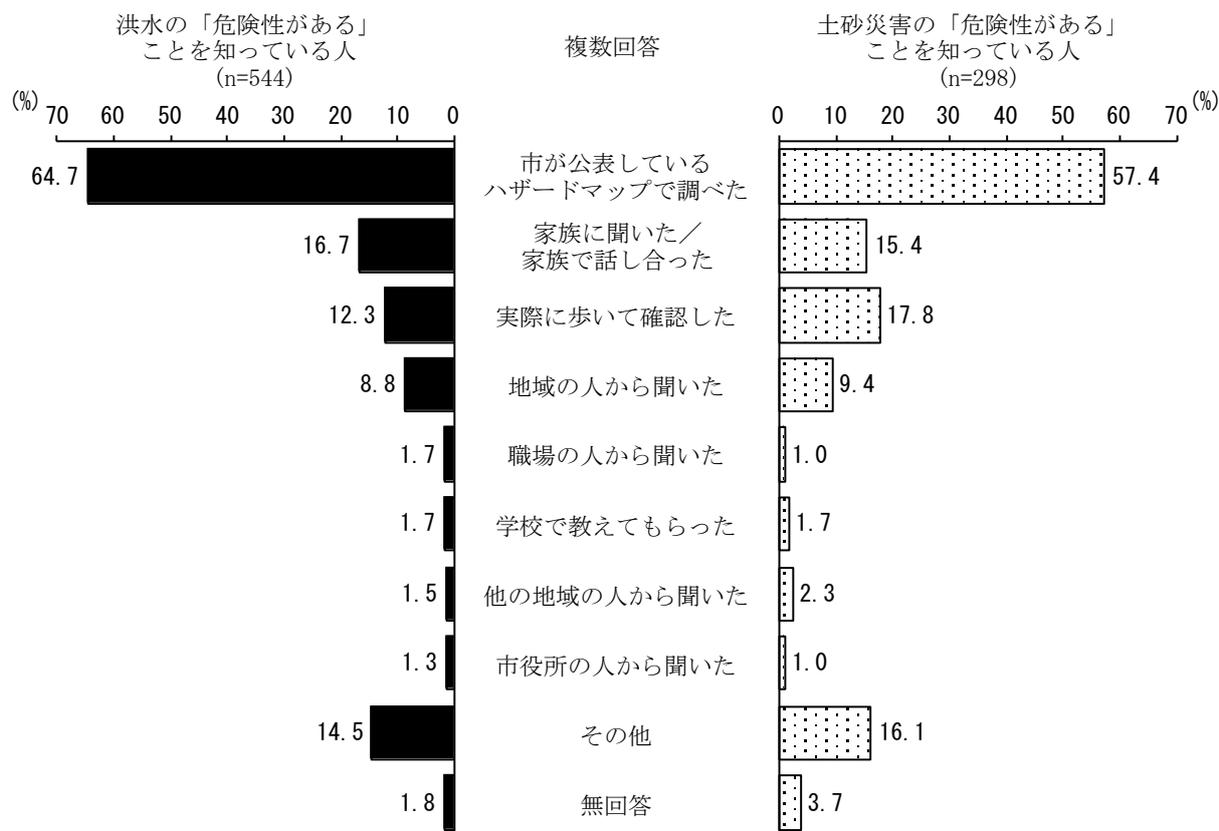
6-2 風水害の危険性があることについての情報源

◎「市が公表しているハザードマップで調べた」が最も高い

問 18. 大雨や台風の際に発生する恐れがある風水害についてうかがいます。

イ) ア) で、洪水または土砂災害のいずれか1つでも「危険性があることを知っている」に○がついた方にうかがいます。災害の危険性について、どのようにしてお知りになりましたか。
(○はいくつでも)

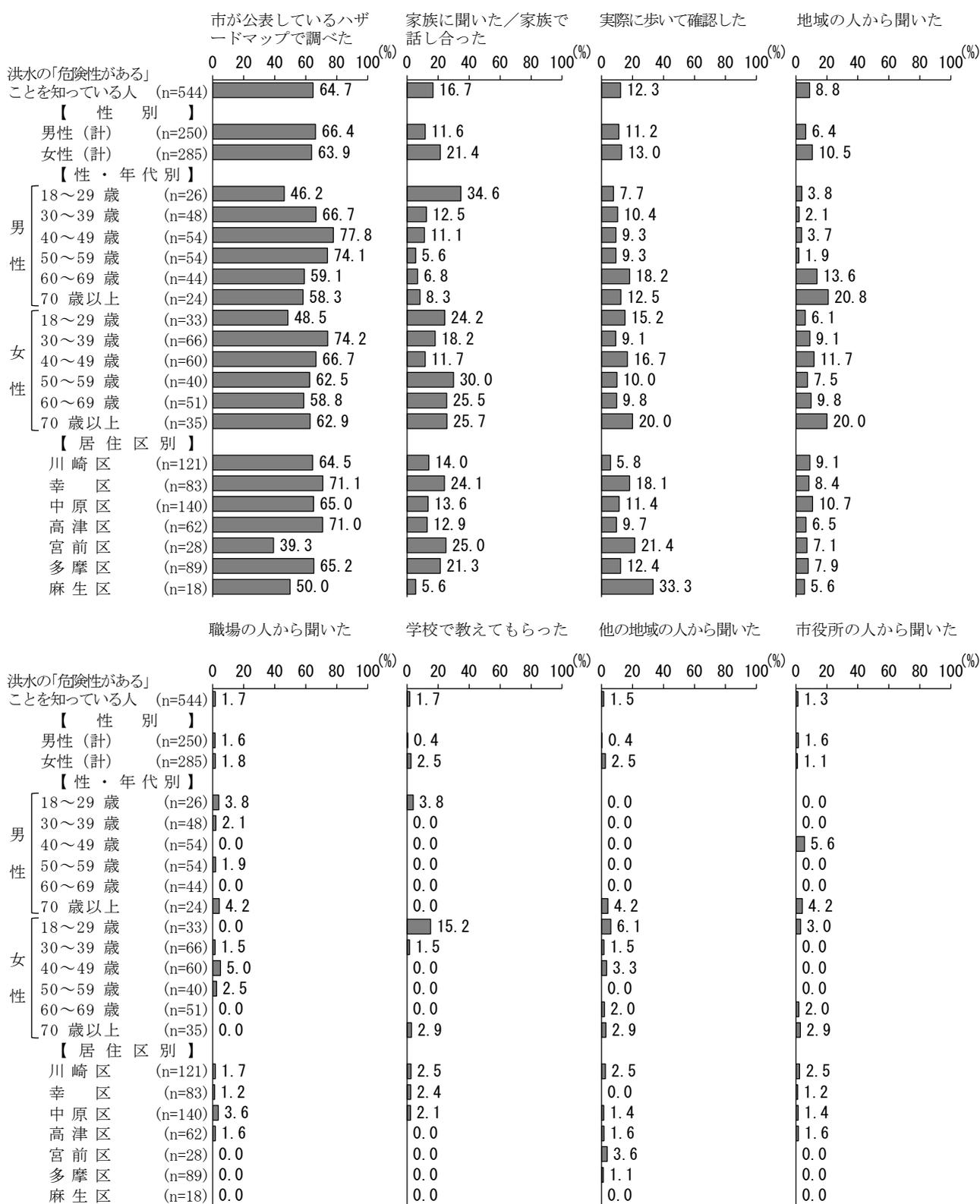
図表 6-5 風水害の危険性があることについての情報源



「洪水」と「土砂災害」のそれぞれについて、「危険性があることを知っている」と回答した人に情報源を聞いたところ、「洪水」「土砂災害」ともに「市が公表しているハザードマップで調べた」(洪水：64.7%、土砂災害：57.4%)が最も高くなっている。「洪水」については、「家族に聞いた／家族で話し合った」(16.7%)が2番目で、以下、「実際に歩いて確認した」(12.3%)、「地域の人から聞いた」(8.8%)の順となっている。一方、「土砂災害」についての情報源では、「実際に歩いて確認した」(17.8%)が2番目で、以下、「家族に聞いた／家族で話し合った」(15.4%)、「地域の人から聞いた」(9.4%)の順となっている。

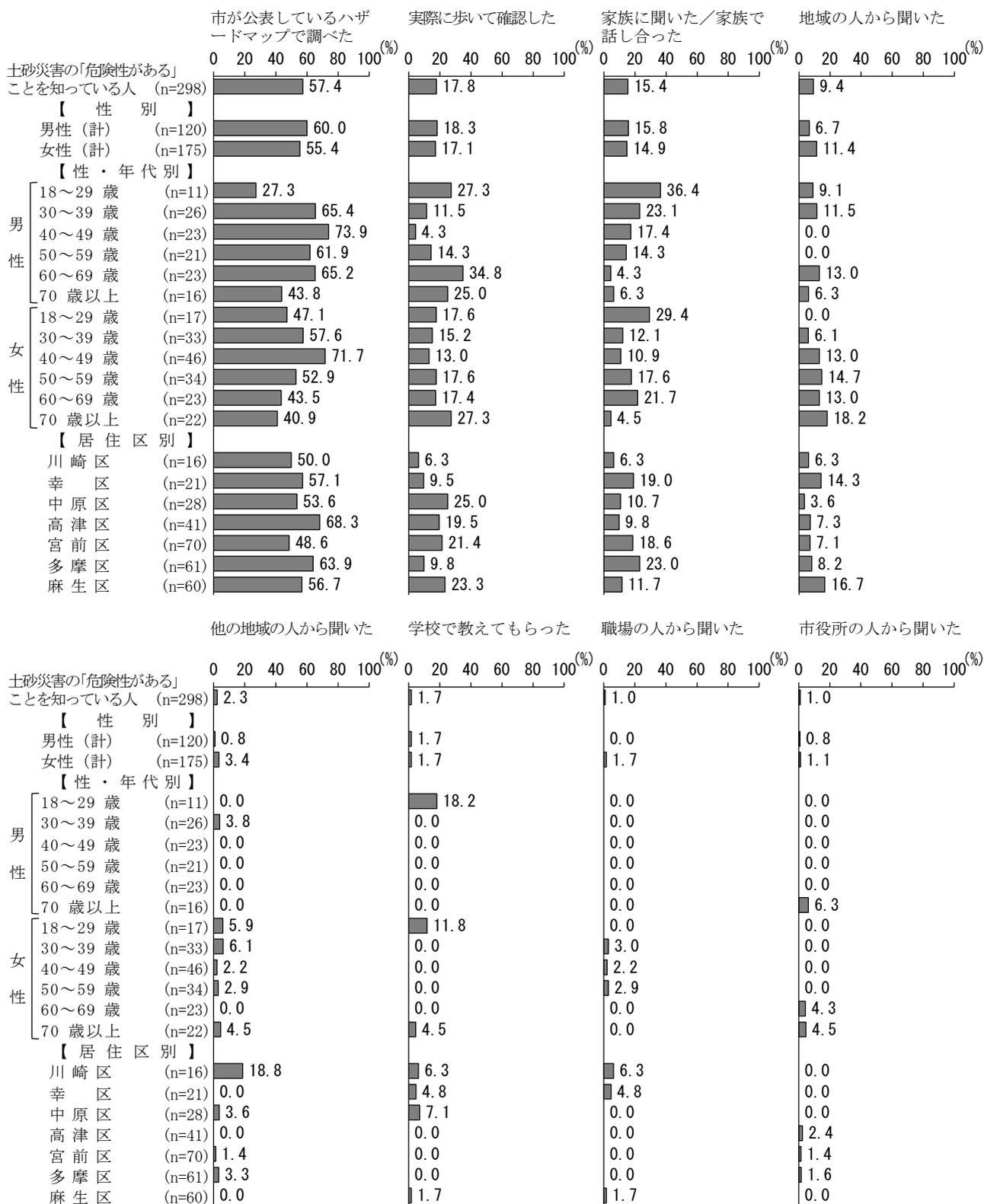
図表6-6 風水害の危険性があることについての情報源(性/年齢別・居住区別 上位8項目)

【洪水の危険性があることについての情報源】



居住区別では、宮前区と麻生区を除き、「ハザードマップで調べた」が、6割台半ば~7割と
なっている。

図表6-7 風水害の危険性があることについての情報源 (性/年齢別・居住区別 上位8項目)
 【土砂災害の危険性があることについての情報源】



居住区別では、宮前区を除き「ハザードマップで調べた」が5割を超えている。

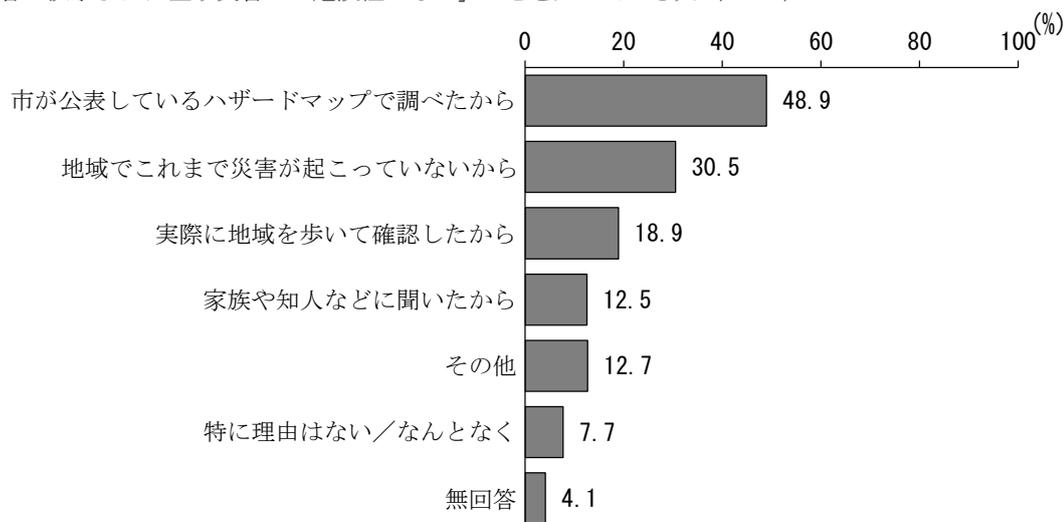
6-3 風水害の危険性がないと思う理由

◎「市が公表しているハザードマップで調べたから」が48.9%

問 19. お住まいの地域では、「災害の危険性はない」と思われる理由を教えてください。
(〇はいくつでも)

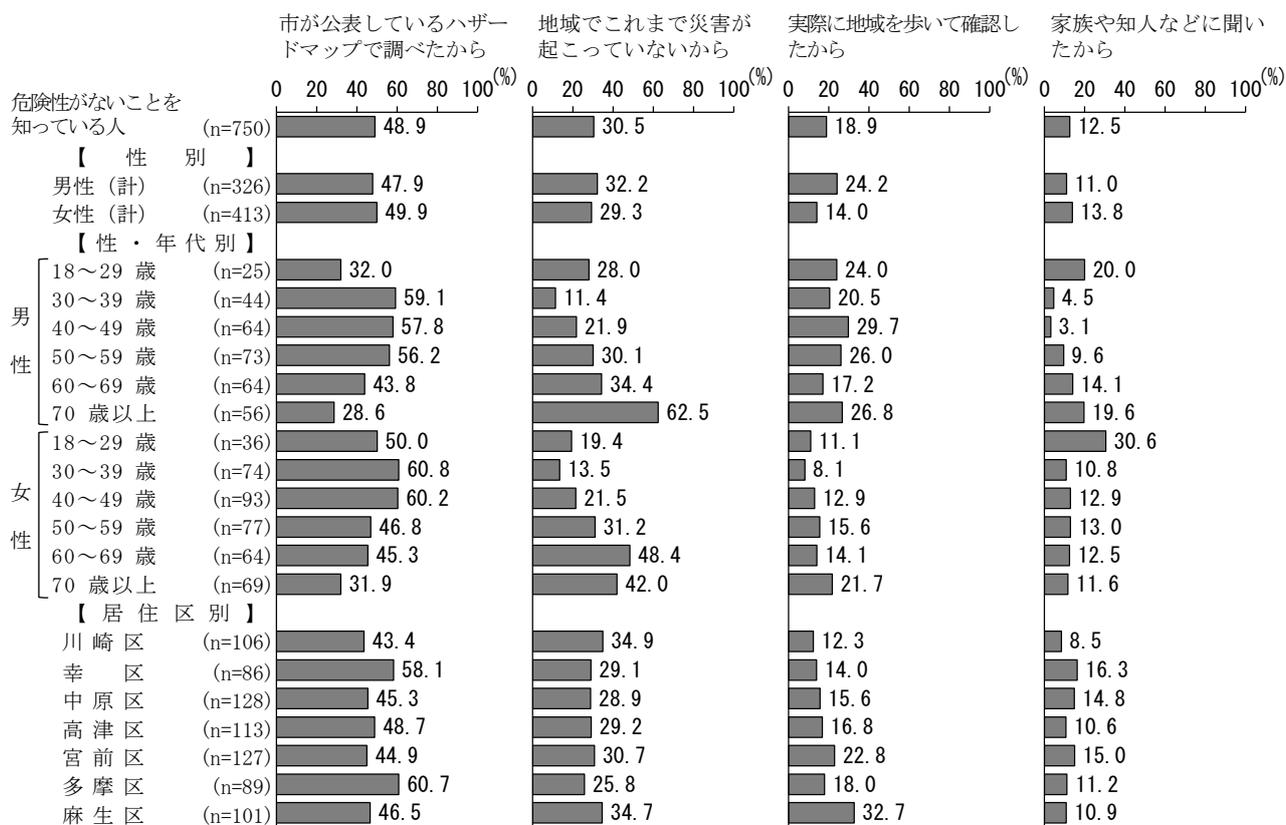
図表 6-8 災害の危険性はないと思う理由

複数回答 洪水または土砂災害の「危険性がない」ことを知っている人 (n=750)



「洪水」または「土砂災害」のいずれかについて、「危険性はない」と回答した人に、そのように思う理由を聞いたところ、「市が公表しているハザードマップで調べた」が48.9%で最も高く、次いで、「地域でこれまで災害が起こっていないから」(30.5%)、「実際に地域を歩いて確認したから」(18.9%)の順となっている。

図表6-9 風水害の危険性はないと思う理由(性/年齢別・居住区別 上位4項目)



性/年齢別では、「ハザードマップで調べた」は、男性の18~29歳と男女の70歳以上を除き、4割台半ば~6割となっている。

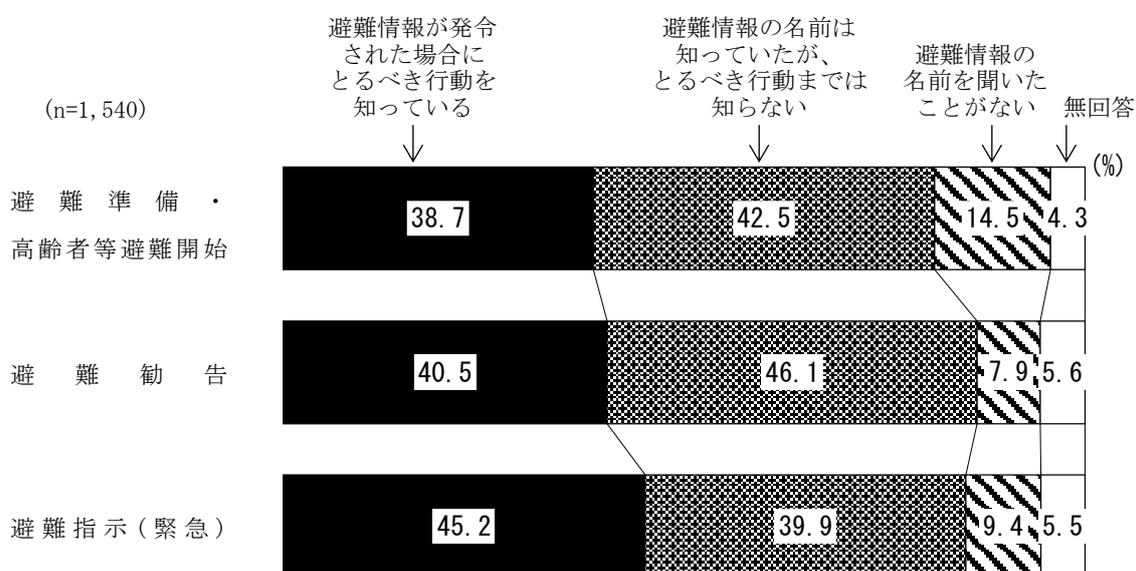
居住区別では、「ハザードマップで調べた」は多摩区(60.7%)が最も高く、次いで、幸区(58.1%)となっている。

6-4 風水害発生の恐れがある場合の避難情報についての理解

◎「避難指示(緊急)が発令された場合にとるべき行動を知っている」が45.2%

問 20. 川崎市では、大雨や台風の際に風水害が発生する恐れがある場合に、以下のような避難に関する情報を発令しています。
それぞれの避難情報について、あなたの場合に当てはまる番号を選んでください。
(○はヨコに1つずつ)

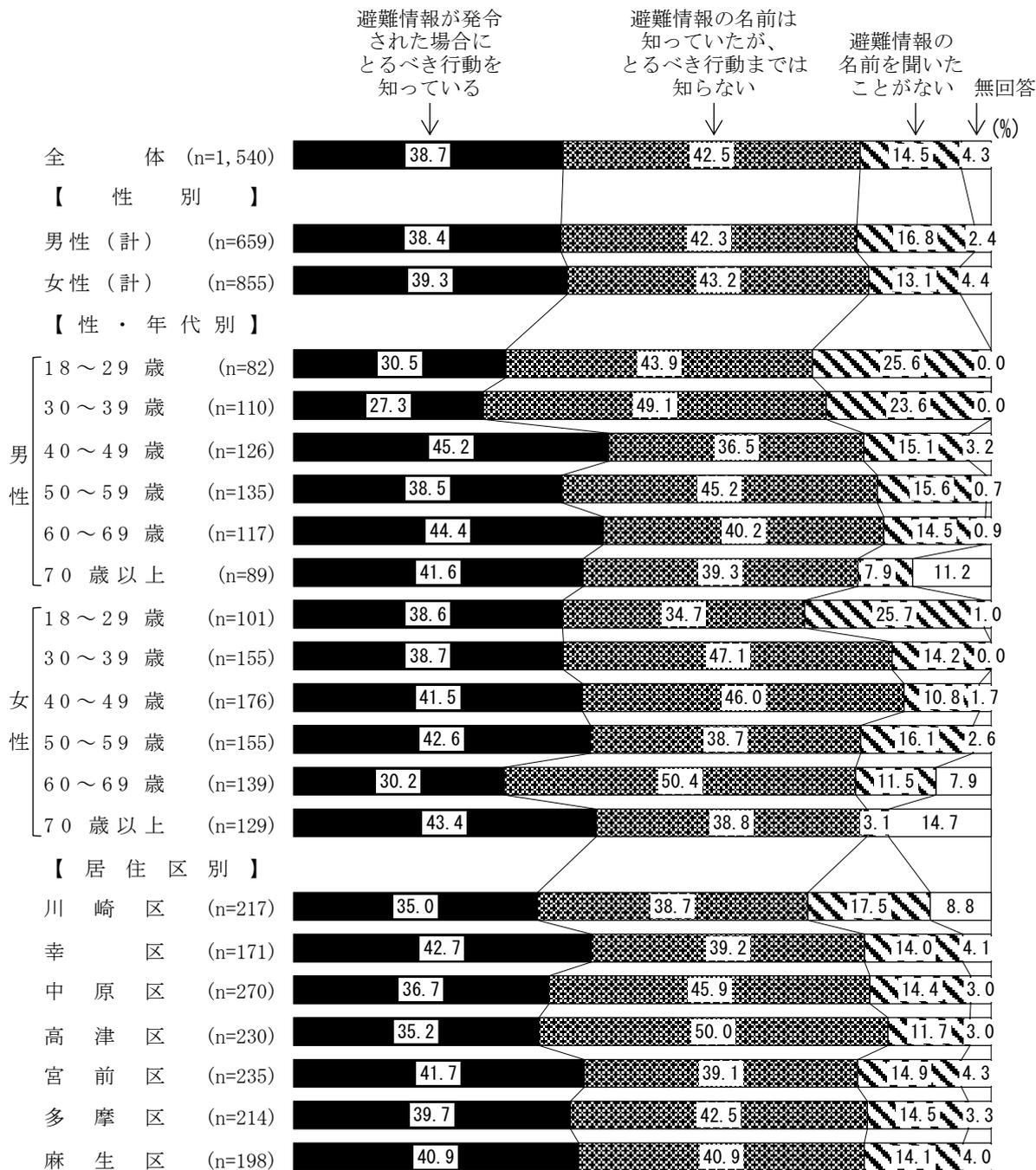
図表 6-10 避難情報について



「避難指示(緊急)」について「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は45.2%となっている。「避難勧告」と「避難準備・高齢者等避難開始」が「発令された場合にとるべき行動を知っている」割合はいずれも4割程度で、「避難情報の名前は知っていたが、とるべき行動までは知らない」の方がやや高くなっている。

図表6-11 避難情報について(性/年齢別・居住区別)

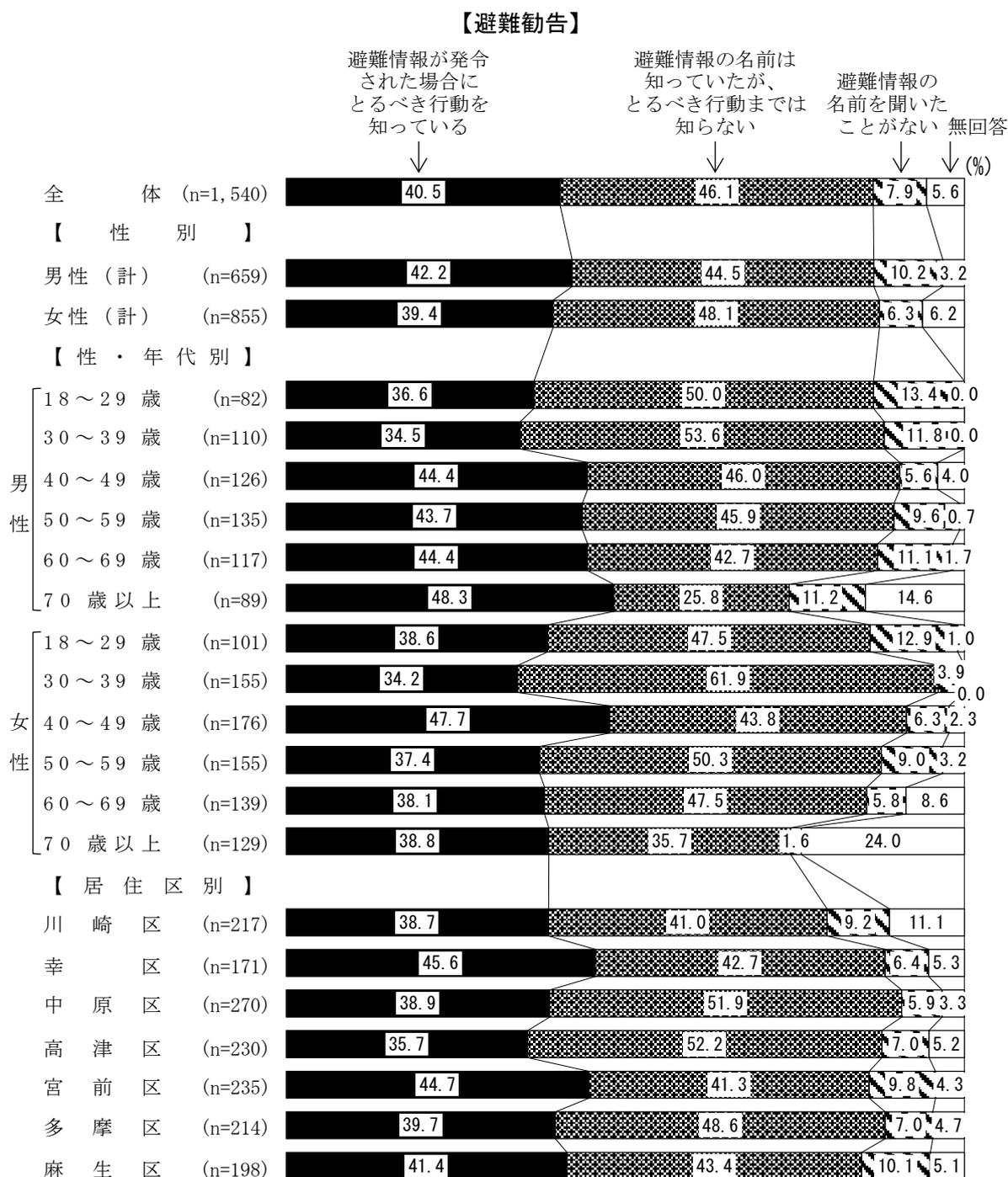
【避難準備・高齢者等避難開始】



性/年齢別では、「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は、男性の40~49歳(45.2%)で最も高く、次いで、男性の60~69歳(44.4%)、女性の70歳以上(43.4%)の順となっている。

居住区別では、「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は、幸区(42.7%)が最も高く、次いで、宮前区(41.7%)、麻生区(40.9%)の順となっている。

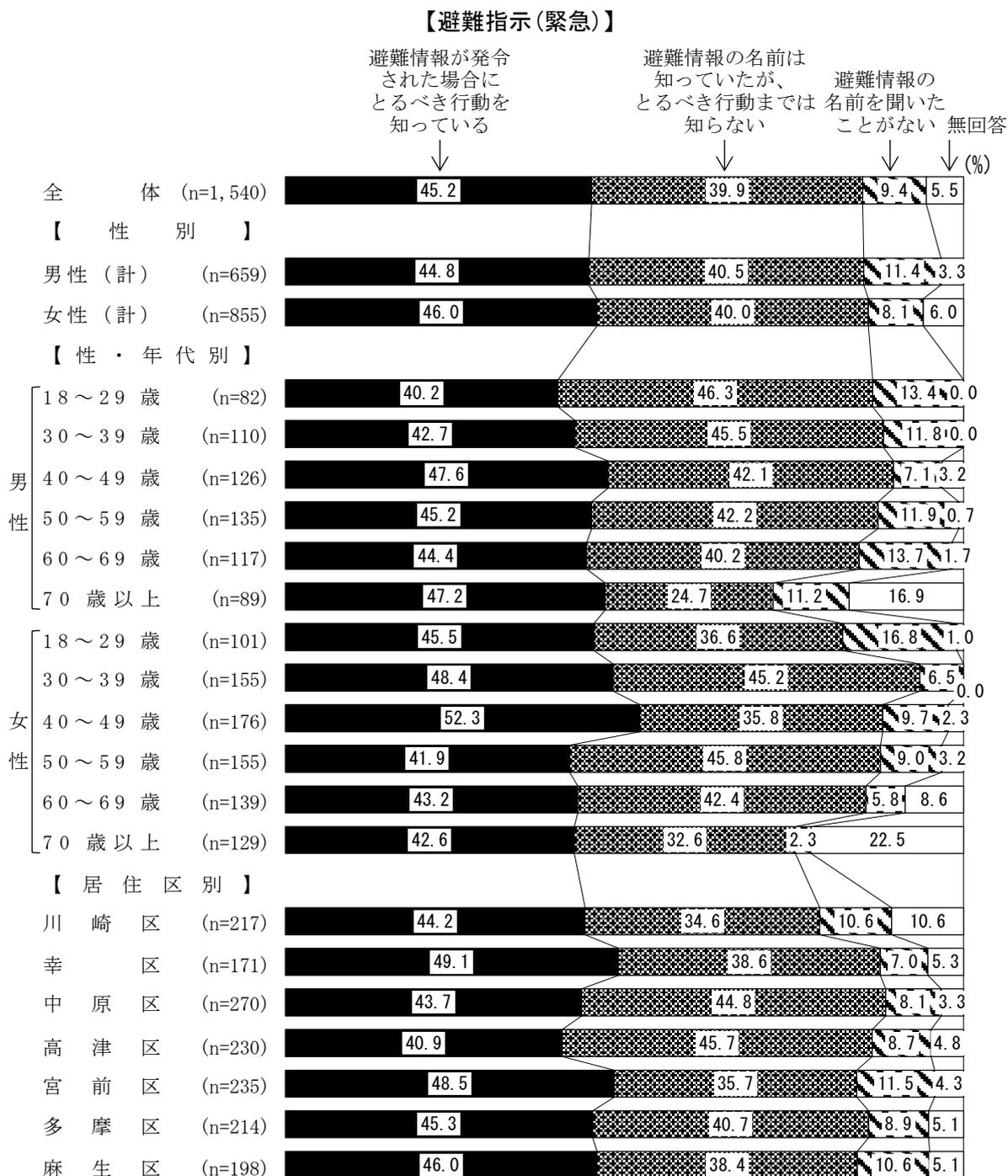
図表6-12 避難情報について(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は、男性の40歳代以上と女性の40~49歳で4割を超えている。

居住区別では、「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は、幸区(45.6%)が最も高く、次いで、宮前区(44.7%)、麻生区(41.4%)の順となっている。

図表6-13 避難情報について(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は、女性の40~49歳で5割を超えて最も高く、他の年代でも4割を超えている。

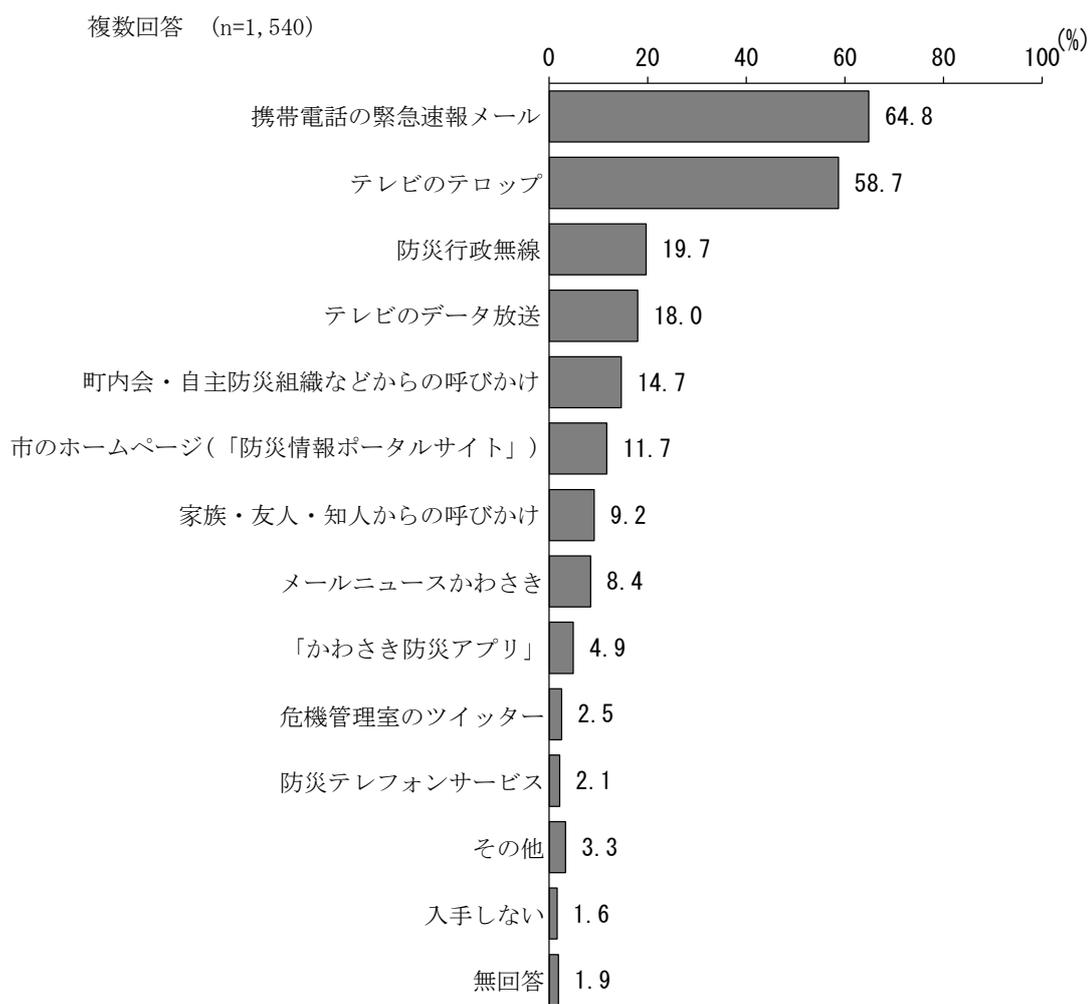
居住区別では、「避難情報が発令された場合にとるべき行動を知っている」は、幸区(49.1%)が最も高く、次いで、宮前区(48.5%)の順となっている。

6-5 風水害発生の恐れがある場合の避難情報の入手先

◎「携帯電話の緊急速報メール」が64.8%

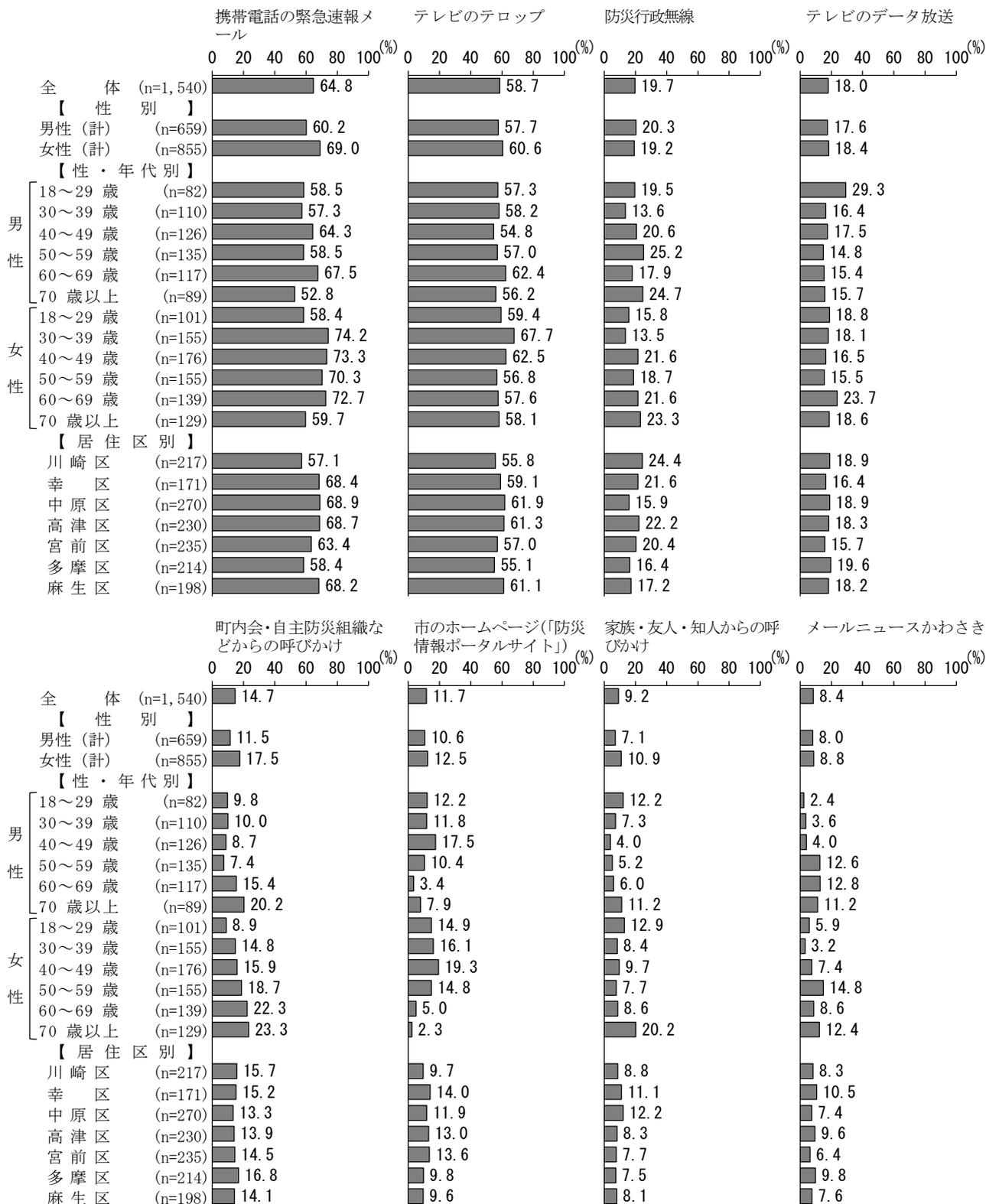
問 21. 大雨や台風の際に、川崎市が発信する「避難勧告」などの「避難情報」をどこから入手しますか。(〇はいくつでも)

図表 6-14 避難情報の情報源



大雨や台風の際に、川崎市が発信する「避難勧告」などの「避難情報」をどこから入手するか聞いたところ、「携帯電話の緊急速報メール」が64.8%で最も高く、「テレビのテロップ」が58.7%で続き、3番目に高い「防災行政無線」(19.7%)以降とは大きな開きがある。なお、「避難情報」を「入手しない」は1.6%となっている。

図表6-15 避難情報の情報源(性/年齢別・居住区別 上位8項目)



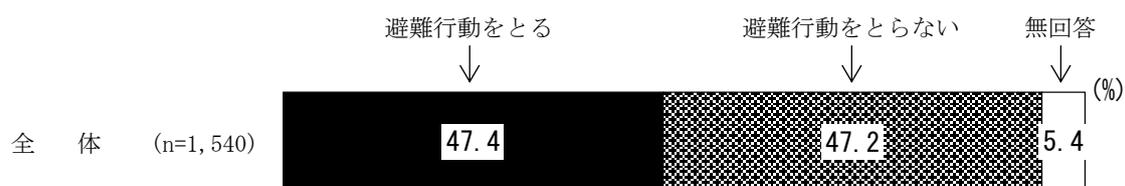
性/年齢別では、「携帯電話の緊急速報メール」は、女性の30歳代~60歳代で7割を超えている。

6-6 風水害発生時の避難行動意向

◎「避難行動をとる」が47.4%で、「避難行動をとらない」が47.2%

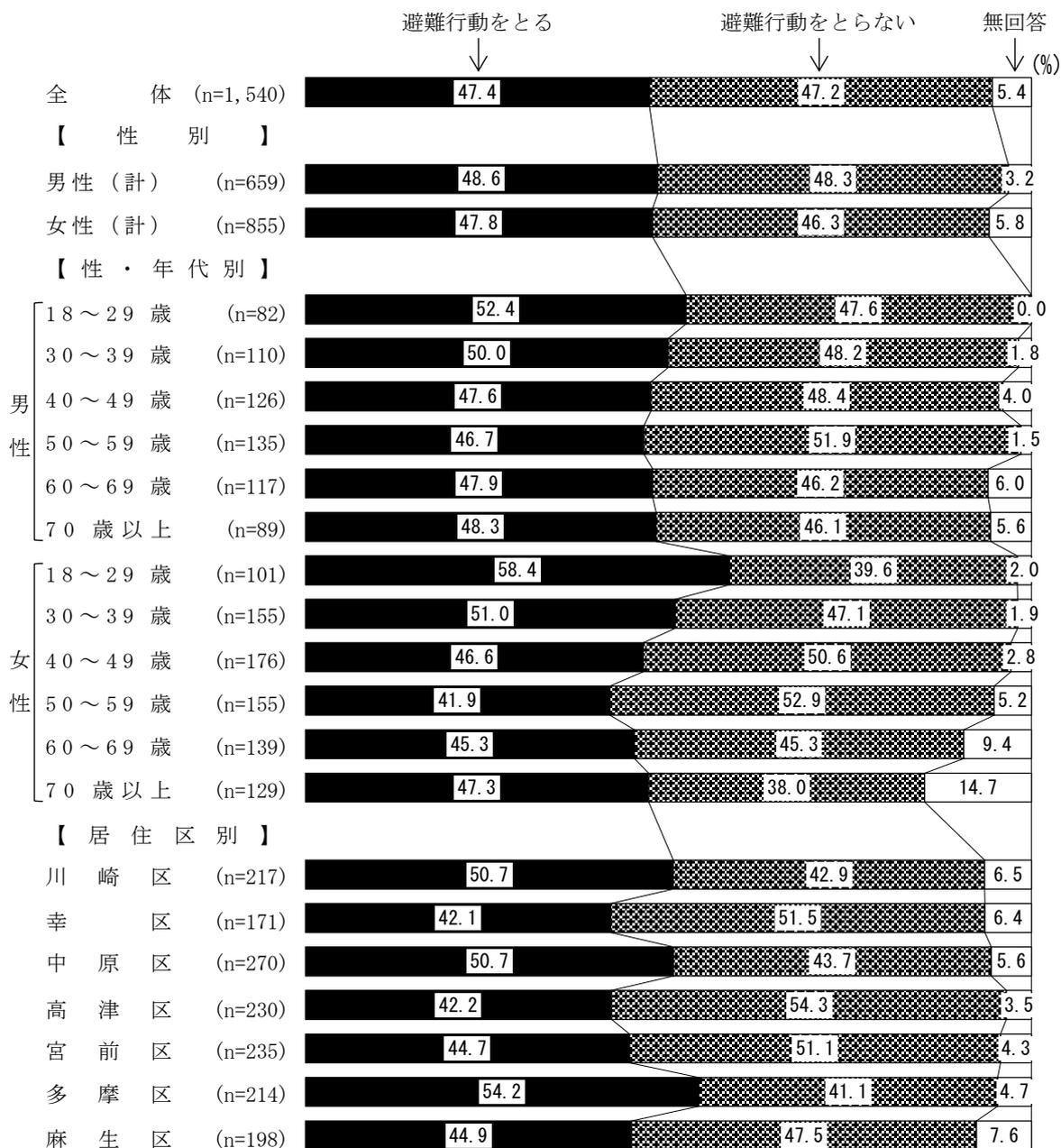
問 22. 大雨や台風による風水害発生の際、あなたは避難行動をとると思いますか。
(○は1つ)

図表 6-16 避難行動意向



大雨や台風による風水害発生の際、あなたは避難行動をとると思いますか。この問いに対して、「避難行動をとる」が47.4%、「避難行動をとらない」が47.2%となっている。

図表6-17 避難行動意向(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、「避難行動をとる」は、女性の18~29歳(58.4%)で最も高く、男性の18~29歳と30~39歳、女性の30~39歳でも5割を超えている。一方、男性の50~59歳、女性の40~49歳と50~59歳では「避難行動をとらない」が5割を超えている。

居住区別では、川崎区、中原区、多摩区では「避難行動をとる」が5割を超えているのに対して、幸区、高津区、宮前区では「避難行動をとらない」が5割を超えている。

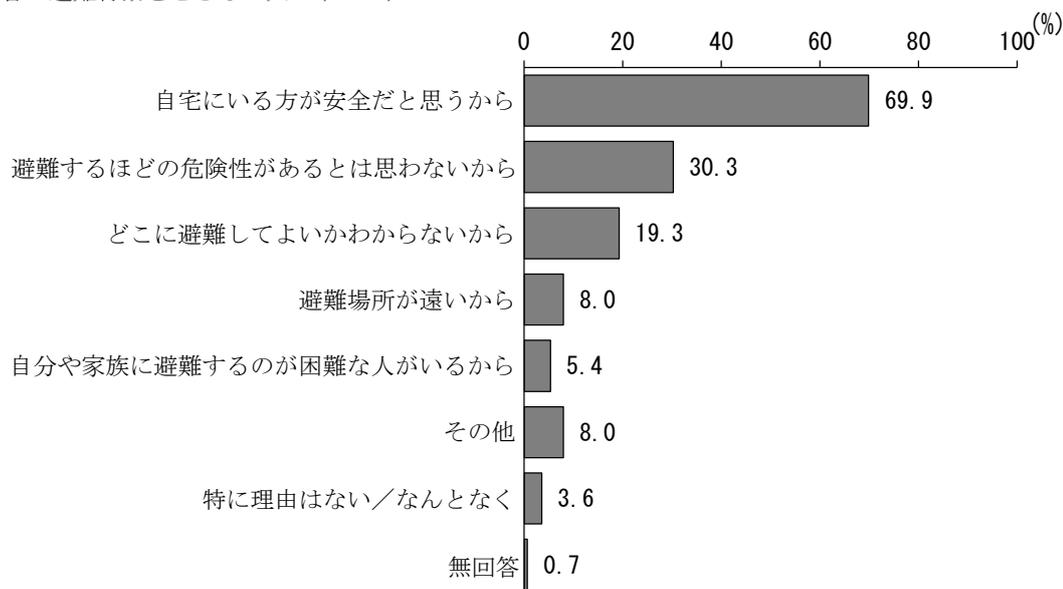
6-7 風水害発生時に避難行動をとらないと思う理由

◎「自宅にいる方が安全だと思うから」が69.9%

問 23. 大雨や台風による風水害発生の際、恐れがある場合に、「避難行動をとらない」と思う理由を教えてください。(〇はいくつでも)

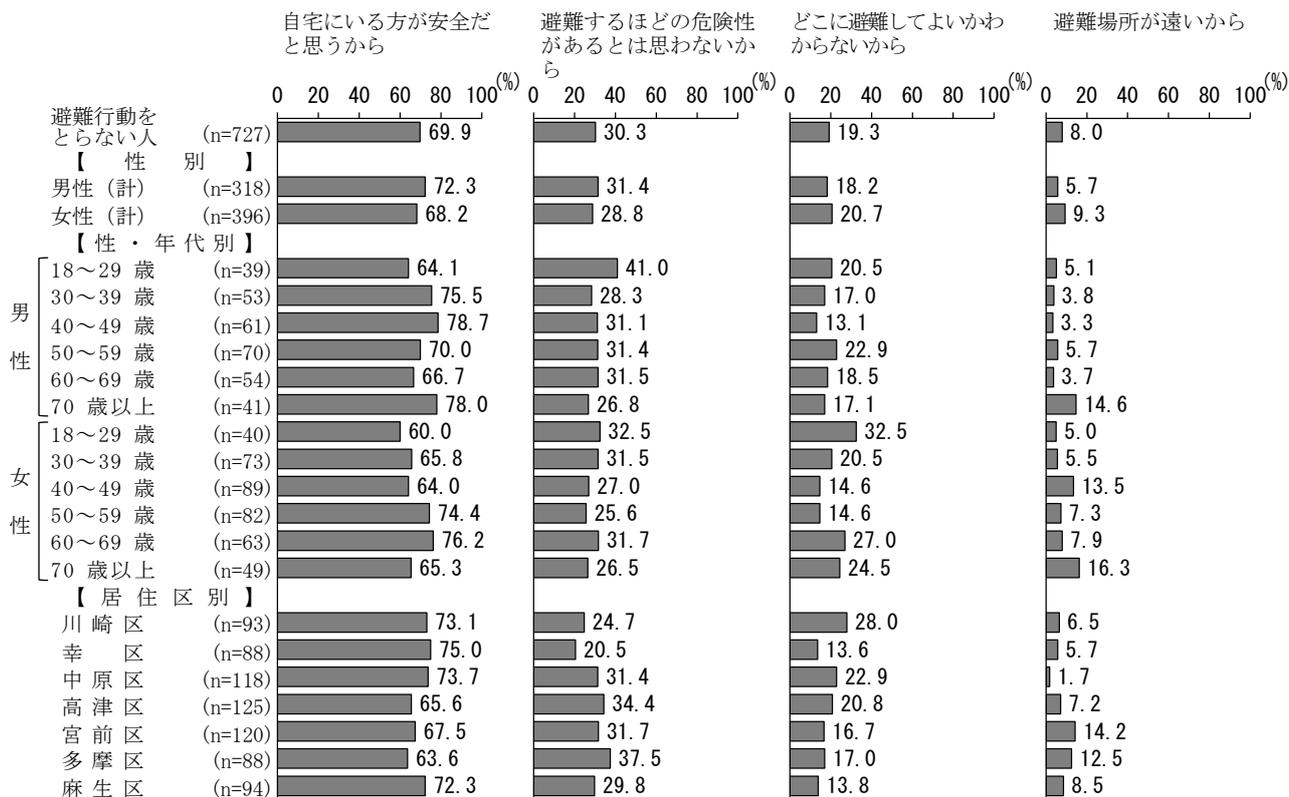
図表 6-18 避難行動をとらない理由

複数回答 避難行動をとらない人 (n=727)



「避難行動をとらない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「自宅にいる方が安全だと思うから」が69.9%で最も多く、次いで、「避難するほどの危険性があるとは思わないから」(30.3%)、「どこに避難してよいかわからないから」(19.3%)の順となっている。

図表6-19 避難行動をとらない理由(性/年齢別・居住区別 上位4項目)



性/年齢別では、「自宅にいる方が安全だと思うから」は、男性の30~39歳、40~49歳と70歳以上、女性の50~59歳と60~69歳で7割台半ば~8割近くと高くなっている。

居住区別では、「自宅にいる方が安全だと思うから」は、幸区、中原区、川崎区、麻生区で7割を超えている。